

VX・ヴィークロス 7つのポイント

モトクロス専用フルフェイス「VX・ヴィークロス」。モトクロス用フルフェイスの問題点を全て洗いだし、完成されたカタチを目指して設計されたニューモデルです。ARAIならではのポイント7つを紹介しましょう。

45円以上のなめらかなフォルム

モトクロス用フルフェイスの第一の問題点は、角張ったフォルムが路面に対し滑るなり逃げたりせず、首への負担が高くなる恐れがあることです。「VX・ヴィークロス」の表面はあくまで滑らかなものにしました。そしてカドのないエッジは最小45円以上の円を連続させた仕上げです。転倒時に滑りやすいフォルムは、フルフェイスの基本であるとARAIは考えます。

緩衝ライナーの重要性

ヘルメットは頑丈な帽体と緩衝ライナーの組み合わせにより、はじめて役目をなすものです。「VX・ヴィークロス」は、多くのモトクロス用フルフェイスに欠けている、チンバー部の裏側にも緩衝ライナーを組み込んでいます。もちろんヘルメット本体下側までしっかり厚みを持たせています。緩衝ライナーの厚みは安全性の大切な目安です。ぜひご自分のお確かめ下さい。

オフロードの要 ベンチレーションシステム

発汗量の多いモトクロスライダーにとって大切なのがベンチレーションシステム。「VX・ヴィークロス」のチンバー部のスリットからのエアは、口元と頬内側の3方向に流れ、後頭部のアウトレットから排出されます。通気性を優先させ、専用設計された内装との組み合わせにより抜群のベンチレーション効果を発揮します。また、皮膚に触れる部分は、吸水、抗菌処理を施した特殊な布地が採用されています。オフロードに不可欠な内装丸洗いに対応しているのはもちろんのことです。

A級ライダーによるテスト、テスト、テスト

動きの激しいモトクロスでは、ぐらつかないフィット感は不可欠。ARAIの実績ある独自のフィット感を生かしながら、通気性を両立させた内装システムは、A級ライダーによる度重なるテストにより煮詰められたものです。もちろん、視野、ゴーグルとの組み合わせ、ベンチレーションシステム、基本の全てがテストにより確認されています。



グレードアップシステム

「VX・ヴィークロス」は、ベースモデルとしてお求め易いおもしろ価格を設定させていただきました。そしてその機能はライダーの好みによりグレードアップが可能です。2つ開いているドレイン穴は、吸気、排気のエアーダクトを取り付けることにより、ベンチレーション効果をより高めることができます。チンバー部には、跳ね石や泥の侵入を防ぐ、ノーズディフレクターを取り付けることもできます。その他ゴーグルストッパーなど様々なオプションが設定されているのも「VX・ヴィークロス」の特徴です。

シールドタイプにも変身可能

「VX・ヴィークロス」には、OW用のシールドを取り付ける事もできます。高速道路での移動時など、シールド付きフルフェイスに変身させる事もできるのです。

ヨーロッパのデザインを導入

先日ドイツ、ケルンで開催されたIFMAショーで、全ヨーロッパに向けて発表された「VX・ヴィークロス」。その中でも特に注目のだったのが、グラフィックデザインを施した「VX-GULL」。実はこのデザインは、数々のGPライダーのデザインを手掛けるスイスのマーティン・デザインによるもの。ヨーロッパ人らしい、鮮やかな色使いで流れるようなラインを持つ美しいカラーリングモデルです。

ARAIにはひとつの完成されたモトクロス用ヘルメットMX-2があります。MX-2はマウスガードの位置を自由に設定でき、万一の際にも、首への負担が掛かりそうな時に、マウスガードが変形することにより避ける事ができるという優れたヘルメットです。優れたモトクロス用を持っているからこそ、「VX・ヴィークロス」を発表するまでには細心の注意を払ってきました。「VX・ヴィークロス」は優れた安全性と度重なるテスト走行による機能を両立させたARAIのモトクロス用としてのもうひとつの顔となるモデルです。

